
日本天文学会 2018 年春季年会 公開講演会のご案内

日本天文学会では、千葉大学で春季年会を開催するにあたり、以下の日程で公開講演会を行います。
公開講演は、千葉大学とも深く関係する講演です。是非ご参加ください。

日時：2018 年 3 月 18 日（日）13:00~15:10（予定）（開場 12:40）

場所：千葉市科学館（JR 千葉駅から徒歩 15 分、京成千葉中央駅から徒歩 6 分）

対象：中学生以上・一般向け

テーマ：「極限環境での最先端天文学」

南米チリの標高 5000m のアタカマ高地、そして南極という極限環境を生かして宇宙を探る研究が盛んに行われています。今回の公開講演会では、そのような研究の中から、千葉大学との関わりが深い、二つの最新の研究内容をわかりやすく紹介して頂きます。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参加費：無料（事前申し込み不要）

定員：180 名（先着順）

<講演内容の紹介>

講演 1：「アンデスの巨大望遠鏡アルマで挑む暗黒の宇宙」

講師：阪本 成一（自然科学研究機構国立天文台チリ観測所教授／チリ観測所 所長）

ALMA（アルマ）は、南米・チリの標高 5000m のアタカマ高地にある巨大電波望遠鏡です。66 台のパラボラアンテナを組み合わせ、宇宙からの電波を高感度で受信するとともに、ハッブル宇宙望遠鏡の最大 10 倍に相当する解像度を実現することができます。日本を中心とする東アジアと北アメリカ、ヨーロッパ諸国などの国際共同プロジェクトとして建設・運用されており、2013 年の本格運用開始以来、銀河や星・惑星系の形成の現場などを、従来にない解像度で描き出してきています。講演では、アルマの現状や最新の観測成果について紹介します。

講演 2：「南極点からニュートリノで探る極限高エネルギー宇宙」

講師：吉田 滋（千葉大学大学院理学研究院教授／ハドロン宇宙国際研究センター センター長）

南極点から広大な宇宙を探査するプロジェクトが IceCube（アイスキューブ）です。遠方の宇宙から、激しい宇宙の姿を伝えるメッセンジャーである「ニュートリノ」を捉え、宇宙からの高エネルギー放射メカニズムを探っています。南極点直下の広大な深氷河に特殊な検出器を 5160 基埋設し、誰も見たことのなかった宇宙ニュートリノ信号を測定しているのです。世界 12 カ国の約 300 人の研究者で運営しているこの巨大観測所では 2013 年の宇宙ニュートリノ発見を始めとする多くの成果が日本グループによってもたらされています。本講演では、アイスキューブ実験の全貌と、観測データから何がわかり何が謎として提示されているのかを解説します。

プログラム・アクセスにつきましては[開催地大学 HP](#)をご覧ください。

[ポスター](#) (A4)

主催：公益社団法人 日本天文学会

共催：千葉市科学館、千葉大学

企画：千葉大学大学院理学研究院物理学研究部門宇宙物理学研究室